

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
の中に含まれております

## 2977号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 石田直裕：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>



「夕陽日本一宣言」の地(静岡県西伊豆町)

### もくじ

- ● 随 情 政 活
- ● フォーラム 報 策 動
- ● 想 報

藤原全国町村会長が岩手県岩泉町を訪問・激励……………(2)	強い農林水産業へ基盤づくり14・1%増の2兆6、350億円…	平成28年度市町村長及び市町村議会議長 総務大臣表彰式挙行される	一勝地、地に足をつけまず一勝を！	地名にこだわらむらおこし〜熊本県球磨村……………(7)	町村Navi……………(11)	高知県奈半利町長 齊藤 一孝……………(12)	心るさと納税による地域への波及効果……………(12)
-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	------------------	-----------------------------	-----------------	-------------------------	----------------------------

### コラム

## この秋は 歩きに新しい魅力？

フリーアナウンサー 青山 佳世

初秋は台風が天候不順にと悩まされましたが、いよいよ行楽 読書 スポーツシーズン到来です。マラソン、山歩き、街歩き、そして今年、「歩くトレーナー」(ゲームをする人)という新しい「歩き」のジャンルが生まれたようです。

これまで青春時代含めてゲームには全く関心がありませんでしたが、今回の新しいゲームは「ゲームの世界と現実のリンク」、「一人で部屋にこもるのではなく外へ出て仲間と一緒に」あるいは「観光の目玉に」……という文句に少し興味が湧いてきました。また歩きスマホによる交通事故、駐車違反にマナー違反といったマイナスイメージもされるなど社会現象となっている現状に、食わず嫌いでコメントするわけにいかなくなり、早速体験することに。

少々気恥ずかしい思いで珍しいキャラが出現するという公園に行ってみました。すると若者はもちろん、かつてのゲーム世代、孫と遊ぶために必死のおじいちゃん、おばあちゃん…実に様々な大勢の人々が集まっていました。

「でー」(キャラが出現)、「やったー」(捕まえた) あちらこちらで歓声が上がると、出現した地点に向かって、携帯片手にほかの大勢の人たちが一斉大移動。この光景を一度はご覧あれ、思わず笑いがこみ上げるはず。はじめは携帯画面に首つ引きですが、慣れてくると周りの風景を見る余裕ができて、新たな発見も多々あるのです。

海外でも全く同じキャラが現れます。アメリカ、オーストラリア、アジアだけじゃないキャラが一匹ずつあるといわれていますが、逆に地域性のあるキャラがもっと出てほしいものです。そこで手に入らないキャラがあれば、他の土地へ行く楽しみも増えるはず。このゲームは正確なGPS情報によるため、ドライブ中助手席ナビは、地名は入っていないものの地図代りに大いに助けられました。

地域振興、観光振興に使うのは本末転倒という声も聞こえてきますが、一つのきっかけづくりになります。魅力的な街で魅力的なキャラに出会えれば最高です。キャラの出現場所や出現回数など、地域活性化に貢献するような仕組みがあるといいですね(もちろん希望する地域に対してですが)。たかがゲームされどゲーム、キャラも強化・進化させることができるのですから、元気の欲しい国や地域、お店へ人々を誘えるように進化させることができれば、普通のゲームとは一線を画す存在になることでしょう。

### 写真キャプション

日本の夕陽百選に認定されている大田子海岸。町内には他にも堂ヶ島・黄金崎などいくつもの夕陽スポットが存在し、多くの旅人やカメラマンから愛され続けている。春分と秋分の時期には田子島の男島・女島間に夕陽が沈み、夕景と交わる空と海、奇岩群が格別の美しさを魅せる。

## 全国町村会

## 藤原全国町村会長が岩手県岩泉町を訪問・激励



▲伊達岩泉町長(左)から被災状況の説明を受ける藤原全国町村会長(右)



▲支援物資が整理・保管されている岩泉町民会館



▲介護老人保健施設や高齢者グループホームを視察

藤原忠彦全国町村会長（長野県川上村長）は10月4日、台風10号で被害のあった岩泉町を訪問した。

岩泉町では伊達勝身町長と面談、被害状況や復旧に向けての課題等の説明を受け、意見交換を行った。藤原会長は、町の復旧に向けて激励するとともに、被災現場を視察した。

岩泉町は東日本大震災の被災地でもあり、復旧・復興の途上であるにもかかわらず、今回の台風10号で被災した。町では10月から罹災証明書の受付が始まったばかりであり、今後詳細に被災状況を把握したうえで、被災者等の生活基盤・社会基盤等の整備、仮設住宅の建設を進めていくこととしている。

策  
解  
説

## 2017年度農林水産省予算概算要求

強い農林水産業へ基盤づくり  
～14.1%増の2兆6,350億円～

農林水産省がまとめた2017年度予算概算要求は、一般会計総額が16年度予算と比較して14・1%増の2兆6、350億円となった。

概算要求全体の特徴としては、農地の大区画や、老朽化した施設の改修など、強い農林水産業に向けての基盤づくりに重点を置いた。全体の方向性について幹部職員は「これまでも農地中間管理機構の創設など改革に取り組んでいる。現在は、食料・農業・農村基本計画などの各種計画を着実に実行して政策を進めていく段階にある。概算要求ではそれに向けて必要な金額を要求した」と評価する。

公共事業費は、19・4%増の8、075億円。このうち自治体から増額を強く求められていた農業農村整備事業は3、555億円となり、今回の当初予算で3、000億円台を回復するかも注目される。また、別の幹部職員は「16年度第2次補正予算も含めて、自治体の希望には目いっぱい応えることができたのではないかと胸を張る。」

他に公共事業では、国産材の安定供給体制構築に向け、森林整備事業費として20・0%増の1、443億円を要求。地方の裁量で実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援する農山漁村地域整備交付金には同20・0%増の1、280億円を盛り込んだ。

## 自給率向上で「メカから転作を

施設整備では、国産農畜産物の安定供給に向けて、生産から流通まで

に必要な共同利用施設の整備を支援する「強い農業、つくり交付金」が10・6%増の230億円。浜の活力策定プランを策定した地域を対象に水産資源の管理や防災・減災対策の

取り組みを支援する「浜の活力再生交付金」には46・3%増の60億円を要求した。

飼料用米や麦などへの転作を進めるための「水田活用の直接支払い交付金」は7・9%増の3、322億円。25年度の目標として、飼料用米生産110万トン（15年度は42万トン）、飼料自給率40%（15年度は28%）などを掲げている。需要の減少傾向が続く主食用米の生産調整とともに、食料自給率（15年度はカロリーベースで39%）の向上にもつながるため、農林水産省としても引き続き力を入れていく方針だ。

## やる気のある担い手に農地を

農地の集積・集約化を目的に14年度に創設された農地中間管理機構。政府は、23年までに担い手による農地利用が全農地の8割（15年度は52・3%）とする目標を掲げている。目標達成には、担い手による農地利用面積が1年間に14万ヘクタールずつ増えていかななくてはならないが、15年度は6割に当たる8・0万ヘクタールにとどまっている。官房幹部も「強いて言えば、今回の予算では、

## 政 策

農地集約と輸出に重点を置いていく」と指摘しており、対策を強化する考えた。

17年度予算概算要求においても農地中間管理機構の事業費などとして181・9%の36億9、600万円を要求した。

さらに担い手の農地利用の増加につなげるため、(1)まとまった農地を貸し付けた地域(2)農地を貸し付け、担い手への農地集積・集約化に協力する農地の出し手を対象に協力を交付する。関連事業費として205・3%増となる140億1、600万円を盛り込んだ。

また、農地利用の最適化を図るため、農業委員や農地利用最適化推進委員の積極的な活動を支援するため、農地利用最適化交付金を4倍以上となる82億5、000万円計上した。

## 19年輸出目標1兆円の達成へ

政府は今年5月に「農林水産業の輸出力強化戦略」を策定し、拡大する世界の食料需要を取り込むため21の国と地域ごとに輸出戦略を示したほか、コメや青果物など品目ごとの

対応方向も明らかにした。さらに、

(1)農林漁業者自身による海外における販売拠点設置への支援(2)国内の出関連手続の改革(3)諸外国における規制の緩和・撤廃に向けた省庁横断チームの設置など7つのアクションも設定。これらを踏まえ、従来から1年前倒しとなる2019年の農林水産物・食品の輸出額を1兆円(15年は7、451億円)とする目標を掲げている。

日本発の食品安全管理規格・認証スキームの支援や普及に向けて83・3%増の1億6、500万円を盛り込んだ。また、海外でも通じる地域産品のブランド化を進めるために地理的表示(GI)の申請やGI保護制度の普及啓発に向けて9・8%増の1億9、100万円を計上した。

一方、新規事業としては、植物品種等海外流出防止総合対策事業費として8、300万円を要求。国内種苗の海外への流出・無断増殖を防止するために海外における品種登録(育成者権取得)を支援するとともに出願マニュアルの作成なども行う。

## 新規就農者の増加に重点

15年における基幹的農業従事者の平均年齢は67・0歳となっており、著しく高齢化が進んでいる。小泉進次郎自民党農林部会長も「一体10年後に誰が田んぼや畑に出ているのだ」と危機感をあらわにしている。農林水産省も新規就農し定着する農業従事者を倍増させ、23年までに40代以下の農業従事者を40万人に増大する目標を掲げている。

概算要求においても農業次世代人材事業(旧・青年就農給付金事業)として48・5%増の172億4、600万円を要求した。具体的には、就農前の研修期間(2年以内)の生活安定と就農直後(5年以内)の経営確立に資する資金を交付する。さらにグローバル感覚を備えた人材の育成に向けて、海外研修を行う場合の支援を強化する。

農業高校を卒業した生徒の就農率は4%といったデータもあり、若者の就農に向けた取り組みは喫緊の課題だ。その一方で、15年の新規就農者調査では、49歳以下の新規就農者数が前年比1、170人増の2万3、

030人となり、調査を開始した07年以降で最多となった。特に農業法人数の増加を背景とした新規雇用就農者数が1万430人と全体の半分近くを占めている。

## 日本の食でインバウンドを

「日本再興戦略2016」では、サービス産業の活性化・生産性の向上とともに訪日外国人旅行者受け入れ拡大を中心とする観光振興も掲げられている。特に旅行者からは地域特有の食材などに関心が高まっていることから、外食・中食等における国産食材活用促進事業として新たに1億円を要求した。

具体的な内容として、生産現場に外食・中食業者が出向き、視察やマッチングなどを実施する。また、各地の地場産食材に関する生産情報などを発信するとともに、外食・中食業者のニーズを生産者に伝える仕組みを構築することで、互いに必要な情報を緊密に共有できる体制を整備する。

さらに食によるインバウンド対応推進事業には同額となる7、000万円を盛り込んだ。農林水産物・食

政 策

品の輸出拡大をインバウンドにつなげるため、訪日外国人に日本の食を楽しんでもらうための環境を整備する。「食と農の景勝地」に認定された地域の魅力を海外に発信するほか、訪日外国人の言語や食習慣の違いに対応した飲食店の拡大に向けてガイドブックの作成や研修を行っていく。

林業の成長産業化でモデル地区

林野庁関係の概算要求は17・2%増の3、436億3、800万円となった。国内の森林資源をめぐっては、戦後造成された人工林が本格的な伐採期を迎えている。そのため、充実した森林資源の有効活用とともに伐採した後に植林するといった循環も課題となっている。

新規事業として「林業成長産業化地域創出モデル事業」に20億円を要求。川上から川下までの事業者がバリエーションでつながることで高収益化を目指す。ソフト面やハード面でもモデル地区を10数力所選定する予定だ。具体的な支援としては、高性能重機の導入や情報通信技術（ICT）を活用した木の位置の情

報共有などを支援することを想定している。

また、森林経営計画の作成などに必要な森林情報の収集や既存路網の改良を支援するため、森林整備地域活動支援交付金として144・6%増の7億2、400万円を盛り込んだ。同交付金では、在村・不在村森林所有者の特定や森林境界の測量に対しても支援を行う。

さらに19年4月の林地台帳の全面施行に向け、市町村が林地台帳を効率的に管理・活用するためのシステム整備などとして、19・9%増の3億3、700万円を計上した。

漁業経営安定対策の推進を

水産庁関係の概算要求は15・5%増の2、060億5、500万円となった。漁業経営安定対策と漁業構造改革の推進のほか、20年の輸出目標3、500億円の前倒しに向けて水産物の加工・流通・輸出対策を強化する。

漁業経営セーフティネット構築事業には3倍以上となる76億7、000万円を要求。漁業者と国の拠出により、燃油価格や配合飼料価格の

上昇時に補填金を交付する。

また、県一漁協等組織再編実施領域数を20年度に16県域（16年度は11県域）まで増やす政策目標を掲げている。新規事業として漁協経営基盤強化促進事業に2億6、300万円を盛り込み、合併計画を支援するほか、合併漁協の事業改善計画の実行に必要な借入金の負担軽減を図る。

流通関連では、国産水産物流通促進事業に9・2%増の8億2、100万円を要求。消費者ニーズや産地情報の共有化、新商品の開発や学校給食での利用促進に必要な機器の導入を支援する。

その他にも、新たに栽培漁業総合推進事業に向け1億6、300万円を要求。消費者のニーズを踏まえた新たな種苗生産技術の開発促進を実施する。

また、真珠養殖業等連携強化・成長展開事業として新たに3、000万円を計上。オールジャパンで真珠養殖の振興に取り組むため、国・地方自治体・民間事業者・研究機関が連携するための協議会を整備。協議会では、行動計画を策定していくとともに次世代を担う人材も認定していく。

時事通信社内政記者 真島 裕

車両共済(保険)のご案内

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償(車両保険)」を追加する制度です。お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

●お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内  
●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間 月～金 午前9時30分～午後5時)

0120-731-087 FAX 03-3519-7325

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが団体契約を締結し、実施しているものです。
- 団体としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併し誕生した会社です。

# 平成28年度 市町村長及び市町村議会議長 総務大臣表彰式挙行される

▶ 町村長代表… 棚野北海道白糠町長(左)



▶ 式辞を述べる原田総務副大臣



▶ 祝辞を述べる藤原全国町村会長



▶ 表彰を受けられた町村長



平成28年度市町村長及び市町村議会議長総務大臣表彰が、10月5日、東京・永田町の全国町村会館で挙行され、市町村長として通算20年以上及び地方議会議長として通算12年以上在職し、地方自治の発展に功労のあつた者16名(町村長は5名)が表彰された。式典は原田憲治総務副大臣の式辞に続いて表彰式が行われ、町村長を代表して棚野孝夫北海道白糠町長(北海道町村会長)に表彰状と記念品が授与された。

続いて来賓の竹内譲衆議院総務委員長、横山信一参議院総務委員長、藤原忠彦全国町村会長及び岡下勝彦全国市議会議長会長から祝辞が述べられ、最後に表彰された市町村長と市町村議会議長の各代表者から謝辞があり、式典を終了した。

## 被表彰者氏名

※敬称略

- ◆ 町村長
- 北海道 白糠町長 棚野 孝夫
- 青森県 六戸町長 吉田 豊
- 茨城県 大洗町長 小谷 隆亮
- 岐阜県(元)八百津町長 赤塚 新吾
- 兵庫県(元)福崎町長 嶋田 正義

フォーラム

▷エメラルドグリーン街道

現地レポート

町村独自のまちづくり



一勝地、地に足をつけまず一勝を！  
地名にこだわるむらおこし

球磨村の概要

球磨村は、九州の熊本県南部、人吉盆地の西側に位置する山村で、人吉市、球磨郡山江村、葦北郡芦北町、水俣市、八代市坂本町、さらに鹿児島県伊佐市に接しています。東西13km、南北25km、総面積207・58km<sup>2</sup>であり、そのうち約9割を山林が占めています。人口は3,925人、世帯数1,534戸（平成28年6月1日現在）で、40・1%を65歳以上の方が占めています。

年間平均気温は約15・0℃（気象庁ホームページより引用）、年間平均降水量は2,000mmを超え、夏期と冬期の寒暖の差が大きく、やや大陸的変化のある気候となっています。村の主な産業は農業と林業です。

球磨村は昭和29年に、渡村、神瀬村、

熊本県 球磨村  
日本で最も美しい村



一勝地村の3村が合併して誕生し、平成26年には合併60周年を迎えました。また、平成25年10月には、日本で最も美しい村連合へ加盟しています。

村の中央を日本三大急流の一つ、「球磨川」が東西に流れており、川を挟んで南に国見山（969m）、北に白岩山（1,002m）をはじめとする標高700m級の山々がそびえ、これらの山岳を縫って無数の川が球磨川に注いでいます。この球磨川の水面は美しい花緑青に輝き、その色から並走する国道219号線には「エメラルドグリーン街道」の愛称がつけられています。また、球磨川沿いを国道と並行するように、S/L人吉号で知られる肥薩線が走っています。

地域の大部分が山林であることから、農地もほとんどが山間部にあります。そのため、先人は知恵を絞って美

フォーラム



△2009年から復活した「SL人吉」

しい棚田を築きあげてきました。日本の棚田百選に選定された棚田は熊本県内に11ありますが、そのうち「鬼ノ口棚田」と「松谷棚田」の2つが球磨村にあります。

急流と鍾乳洞の里、くまびらの観光素材

球磨村の観光といえば、九州最大級のスケールを誇る大鍾乳洞・球泉洞や、日本三大急流の球磨川を下る九州で唯一のラフティングが有名です。

村の南側には石灰岩地帯が広がっており、観光鍾乳洞として有名な「球泉洞（きゅうせんとう）」の他にも、大小さまざまな鍾乳洞が見られます。例えば、間口45m、高さ17m、奥行70mで日本最大といわれる洞口を持つ国名勝神瀬の石灰洞窟（平成27年指定）や、球磨川に注ぐ権現の滝が美しい大瀬鍾

乳洞などがあり、球磨川の大瀬地区付近ではサンゴ礁の化石も見ることができま

す。特に「球泉洞」は昭和48年に発見された延長4・8kmの九州最大級の鍾乳洞で、3億年前前に海底にあった石灰岩層が、地殻変動により隆起し、地下水に浸食されてきたと考えられています。洞内は年間を通して気温16℃程に保たれ、夏の行楽シーズンには涼を求める観光客が多く訪れます。

また、暑い夏には、球磨川を満喫するため、多くのラフティング客が球磨村を訪れます。さらに、尺鮎(30cmク)の巨大鮎が育つことでも知られる球磨川では、毎年8月の最終土曜日に日本一の大鮎釣り選手権大会も開催されています。夏休みは年間でも最も観光客が多いシーズンです。

このように、球磨村は川や石灰岩地帯の地形を生かしたいわゆるハード的



△九州最大級の鍾乳洞「球泉洞」の大石柱



△日本三大急流「球磨川」のラフティング

なものがあります。一方で、レジャー客の少ない冬の淡季に、多くの人が訪れるようになった場所があります。それが今回ご紹介する、縁起の良い地名として受験生に人気の場所「一勝地」です。

肥薩線 一勝地駅

一勝地の地名については、はっきりとした由来はわかりませんが、古くから「いっしょううち」と呼ばれていました。書き方は、地区に残る観音堂の鰐口(天文6年・1537年)の銘に「一升打庚申衆」とあり、「一升打」と書かれていたことがあるのは確実なようです。他にも、「一升内」「一升地」「一升打裏」「二所内」「二舛地」などが古文書等で確認できますが、明治維新後の市町村名見直しの際に、「一勝地」

に統一されました。このとき、一升内よりも縁起が良いということで、現在の表記になったとも言われています。

明治41年、熊本県八代市から鹿児島県を結ぶため、鉄道が敷設されました。日露戦争の当時、ロシアからの艦砲射撃を避けるため、敷設が容易な海沿いではなくあえて、難しい山の中を通るルートが選ばれました。鉄道が敷設されたことで、この地にも「一勝地駅」が作られました。開通当時は鹿児島本線として重要な路線でしたが、九州西海岸を通るルート(現在の肥薩おれんじ鉄道の路線)が鹿児島本線として開通すると、昭和2年には肥薩線の所属となりました。昭和61年には、電子閉塞装置の導入、翌62年には国鉄が民営化され、8年ほど無人駅となった時期もありました。その後、地元の農業協同組合JAくまへの委託を経て、平成17年から現在の村委託駅となり切符を販売しています。大正3年に作られた木造駅舎も、現役で使われています。

受験生が訪れる聖地として知名度を上げてきた一勝地ですが、そもそもの始まりは、昭和58年に、同駅の助役であった上村敏昭氏が、マイカーの普及等で列車の乗客や荷物の取り扱いが減少していくなか、なんとか利用率を上げようと考え縁起の良い「一勝地」の駅名に着目したことでした。そして甲子園出場を決めた熊本工業高校野球部に入場券を送り、それが話題となった

フォーラム



△平成26年にリニューアルした一勝地駅入場券

ところで、受験生とその家族が入場券を買い求めに一勝地駅を訪れるまでは順調でしたが、一つの問題が…。入場券は、JRの収入にはなりませんが、それだけで帰ってしまっただけで地域の収入にはなりません。一勝地駅を訪れた

必勝！合格祈願ノ旅

時を経て、入場券もリニューアルし、勝負事に縁起が良いお守り型になりました。ちなみに、この入場券には日付が入るのですが、購入日以外に、好きな日付も入れられます。受験や試合の日付など、特に必勝を祈願したい日付を入れる方が多くいらっしゃいます。



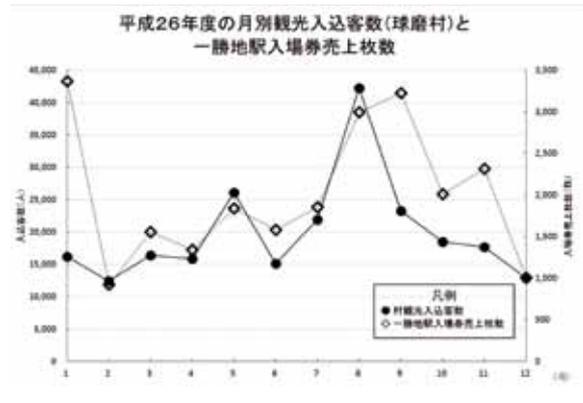
△担当者が登場する必勝！合格祈願ノ旅PR写真

方が、もっと周辺を巡り、地域の経済が循環するような仕組みづくりが必要です。そこで、平成17年から村と観光協会は協議の末、必勝！合格祈願の旅キャンペーンを始めました。キャンペーン期間中は受験が本格化し、なおかつ鍾乳洞やラフティングに訪れるレジャー客が減少する冬に設定しました。「必勝！合格祈願ノ旅」は一勝地界隈の名所をめぐる散策コースの企画です。コースには、一勝地にある小さな史跡や地元の神社など、すでにある資源の中から「一勝地」とつく縁起物や、受験にうれしい健康祈願ポイントを入れ込みました。予算をかせげず、すでにあるものを掘り起こすという手法は、予算をかけて資源を作り上げるハード

的な手法とは対照的な、ソフト的手法といえるでしょう。実際にできたコースをご紹介しますのでイメージしてみてください。まずは前述した一勝地駅をスタート地点として記念入場券を購入します。ぜひ、大正3年に建てられた木造駅舎もじっくり見ていただきたいところです。一勝地駅を出て県道15号線を球磨川の下流方面へ向かうと、赤い色の鉄橋が見えてきます。この鉄橋の下に、セキソの地蔵があります。このセキソの地蔵は子供の熱病や耳の病気に霊験があるといわれ、受験前の健康祈願のポイントです。鉄橋の下からS字カーブのところにあるのが淵田酒造本店です。ここは村で唯一の焼酎蔵で、「一勝地」の名を冠した焼酎を醸造しています。その先には、「勝つ弁」を販売するさつき食堂と、その道の向かいに一勝地阿蘇神社があります。一勝地阿蘇神社では絵馬やお守りが販売され、受験シーズンには合格を祈願した受験生の絵馬がどんどん掛けられています。さらに、球磨川の支流・芋川を上流へ進み、ふれあい球里橋を渡ると、一勝茶屋があります。一勝茶屋では珍しい夏豆餡を詰めて勝の焼印を押し「勝万十」を食べることが出来ます。そして、最後に一勝地温泉かわせみで温泉に入っ

てゴールです。ゴールには物産館もあり、地元生産者による新鮮な野菜や手作りの加工品

などが販売されています。コースの全長は1・5km程。徒歩でものんびり歩いて周れる距離です。さらに、平成20年にはこの取り組みの協力者である人吉駅長杉田憲氏のアイデアによって、JR肥薩線で使われる列車のすべり防止砂の活用を始めました。これが、現在も一勝地駅でプレゼントされている「砂い」です。すべり防止砂で試験に滑らない、砂い(咲いた)はサクサクの掛け言葉になっています。これらの取り組みの成果により、一勝地駅入場券の売り上げは、取り組み以前の4600枚程から5年で2万枚まで伸び、以降は年間約2万枚で推移しています。



フォーラム

工夫を凝らして10年目

開始から10年以上経ち、すっかり球磨村の冬の風物詩となった「必勝！合格祈願ノ旅」ですが、予算をかけずに事業を継続していくには、やはりアイデアが重要です。

まず、開始当初の話ですが、実際に入場券を購入しに一勝地駅を訪れたのは保護者や先生のような大人の方が大半でした。せっかく球磨村に来ていただいたので、受験シーズンの雰囲気味わってもらうにはどうしたらよいか？そこで担当者が考えたのが、一勝地駅での学生服の無料貸し出し。村の広報紙を利用して学生服の寄付を募ると、6着が集まり、さらにお隣人吉市の学生服販売店から11着の寄贈がありました。この学生服は今でも貸し出しやPRのアイテムとして大切に受け継がれています。

次に、10年間同じことをしては飽きられてしまいますので、少しずつ内容の見直しも行っていきます。例えば、従来は12月が旅のスタートでしたが、平成26年には11月1日(いいひ)から3月5日(みなごうかく)に「口」を意識して期間を変更しました。それから、これまでは関係者だけで執り行っていた、入場券や学生服などの縁起物のお祓いをオープニングイベントに位置付け、一般の方でも参加できるようにし

ました。

さらに、新たな取り組みとして、村の体験宿泊施設「田舎の体験交流館さんがうら」のスタッフが発案した、絵馬を自分たちで手作りして一勝地阿蘇神社へ奉納するイベントも行いました。また、昨年開催した中学生向けのツアーでは一勝寺での座禅体験を盛り込むなど、新たなアイデアも加え磨き上げながらさらなる旅の充実を模索中です。

住民、それぞれの合格祈願

しかし、行政や観光協会の取り組みだけではここまで結果はなかったでしょう。受け入れ先である地域と協力して作り上げてきたからこそ結果です。

この事業を始めたころ、担当者は沿線のポイントをつつすつ何か合格祈願ならではのものができないか探して回



△必勝！合格祈願ノ旅ツアー



△日本の棚田百選の1つ「松谷棚田」

りました。そうして生まれたのが、一勝地温泉かわせみの必勝御膳や、地元の加工グループあしさいの勝万十でした。

そして、この必勝！合格祈願ノ旅で重要な役割を果たしてきたのが、一勝地阿蘇神社の宮司・尾方嘉春さんです。尾方さんは、高校の教師をされていた経験もあり、受験生の祈願には一層力が入るとのこと。祈願の際に受験生へ贈る言葉も、特に力がこもります。

春の季節になると美しいチューリップが駅前を彩ります。これは、地区の住民が自主的に手を挙げ、植栽したものです。観光案内所の職員ではなく、地域住民が管理も行っており、訪れる人を喜ばせています。

さらに、これらの取り組みもあって、JRからも受験シーズンは積極的に一

勝地に声をかけてもらえるように。最近ではJRが企画した、人吉球磨地域の合格祈願3社参りに一勝地阿蘇神社も一役買っています。ちなみに、あと2か所は国宝青井阿蘇神社と、受験の神様菅原道真を祀った十島菅原神社です。この3社参りで必勝・合格は間違いなしです。

飛躍をめざして

今後の課題も多くあります。入場券の売り上げは年間2万枚程度であることは前述のとおりですが、ここ5年ほどは頭打ちの感があるのも事実です。今後、さらに一勝地を中心に球磨村を盛り上げていくためには、新たな仕掛けが必要と考えています。

また、今年の4月に熊本を襲った大地震。球磨村は幸いなことに大きな被害はありませんでした。しかし、観光産業は大打撃を受けています。毎年ゴールデンウィークには球磨川から聞こえるラフティングの歓声も、今年は全く聞かれませんでした。

だからこそ、今年は特に頑張り時です。もっと村をよくするために、地域住民と協力してアイデアを出し合い、今年の「必勝！合格祈願ノ旅」も注目されるような取り組みにしていきたいです。是非とも日本で最も美しい村「球磨村」にご期待ください！

球磨村企画振興課 高沢 絵利奈

## 随 想

ふるさと納税による  
地域への波及効果

な はり さい とう かず たか  
高知県奈半利町長 齊 藤 一 孝

奈半利町は、高知県東部に位置し、中核市高知市から東へ約60km、高知龍馬空港から車で1時間足らずの太平洋に面した温暖な人口3千人程度の小さなまちである。

かつては、町の西端を流れる奈半利川の河口で海運業が営まれ、近隣の山々から集められた魚梁瀬杉やヒノキなどを船で関西方面に運搬するなど大変栄えたまちであった。奈半

利町には隣接する田野町とともに、当時の豪商らの旧家の町並みが現在も保存されている。

土佐藩政時代には、木材を伐採するために加領郷(かりょうごう)地区を船着場として切り拓き、後に漁業が営まれ、カツオ漁や定置網漁の拠点として発展するなど、漁業も盛んなまちとして成長してきた。

当町の主要産業は、漁業、農業を中心とした一次産業であるが、近年では少子高齢化と都市部への人口流出により、人口減少に歯止めが効かず、結果的に深刻な担い手不足に陥る状況が続いている。こうした課題を解決するべく、行政と住民組織が協力し、多様な産業施策・人材育成を行ってきたが、解決の糸口を掴む事ができない状況が続いていた。

そうした中、奮起を促す好機となったのは、平成20年度の国の税制改正によって誕生した「ふるさと納税制度」である。同制度は、「ふるさと」に貢献したい、「ふるさと」を応援したいという納税者の皆様の想いを、居住地以外の地方公共団体へ寄附金という形でご負担頂いた時に、個人住民税等が軽減される制度である。

当町は、この制度を地方創生の起爆剤になると考え、制度が創設され

た平成20年度より各種の取組をスタートさせている。

この制度は、地方公共団体の意向により、寄附のお礼に地域の特産品を返礼品として寄附者に届ける仕組みが通例となっているが、一部の華美な返礼品を捉えて、その趣旨から逸脱しているのではないかとといった批判的な報道が出されている。確かに返礼品に魅力を感じ、寄附をする寄附者もいるが、地域の貴重な財源として活用して貰いたいといった強い想いのある寄附者もいることも事実である。

このため、返礼品のみに焦点を当てるのではなく、「寄附先の自治体が制度を活用することでどのような恩恵を受け、どのように変わっていくのか」といった点をもっと評価するべきだと考える。

実際に当町では、この制度を活用することで、地域のモノが売れ、その事によって生産者や事業者の方々の生産意欲が向上するとともに、新たな雇用も生まれ、町全体にその活気が波及している。

この制度の一番の効果は、寄附者と寄附先の自治体が寄附をきっかけに結ばれ、その事が、地方の産業振興に大きく寄与し、地方創生のきっかけ

けとなっているといった点である。

「何もしなければ何も始まらない」。地方は特にそういった言葉が投げかけられる事が多いが、同制度は正に「何かを始める、地方が生まれ変わる」といった大きなきっかけを与えてくれる重要な制度であると強く感じている。

また、効果としてもう一点あげると、集められた寄附金が様々な行政施策に活用されているといった点である。

当町では、産業振興、福祉、教育といった多様な分野において頂いた寄附金を活用しており、返礼品の特産品を提供している生産者や事業者のみならず、その他の地域住民もその恩恵を受けている。町全体に活気が出てきているのは、そういった多様な波及効果が要因であると考えている。

ここまで、当町が抱える課題とその課題を解決するきっかけとなっているふるさと納税制度の取組における効果について述べてきたが、同制度が地方にとってはなくてはならない存在となっている事は間違いない。こうしたことから、今後の制度の継続と全国の地方自治体の更なる活性化を強く願うものである。